

「初めに、神は天地を創造された」（創世記 1 章 1 節）

聖書の最初の書である創世記は、初めに神が天地を創造され、この世界を、最後に造られた人間に支配させられたと記しています。そして長い間その意味を、人間は造られたものの頂点に立つのだから、自然のすべてを意のままに用いてよい、資源は無限にあるのだから…というふうに取り取ってきたのです。けれども今日資源は枯渇し、自然環境の悪化も現実のこととなってくる中で、神の御心に望みを置く人たちは、もう一度聖書を読み直す必要に迫られました。その結果、造られたすべてのものを支配せよと命じられた神のご意図は、意のままに何をしてよいということではなく、造られたすべてのものを神の御心に沿って正しく管理することなのだ気づかされたのです。聖書は「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった」と告げています(31節)。そうです。神の御心を離れては世界もわたしたちの祝福もありません。これが聖書のメッセージなのです。

「この世界が神の祝福へと立ち戻ることができますように、御心が行われますように」と、共に祈り求めて参りましょう。(久野真一郎)

